

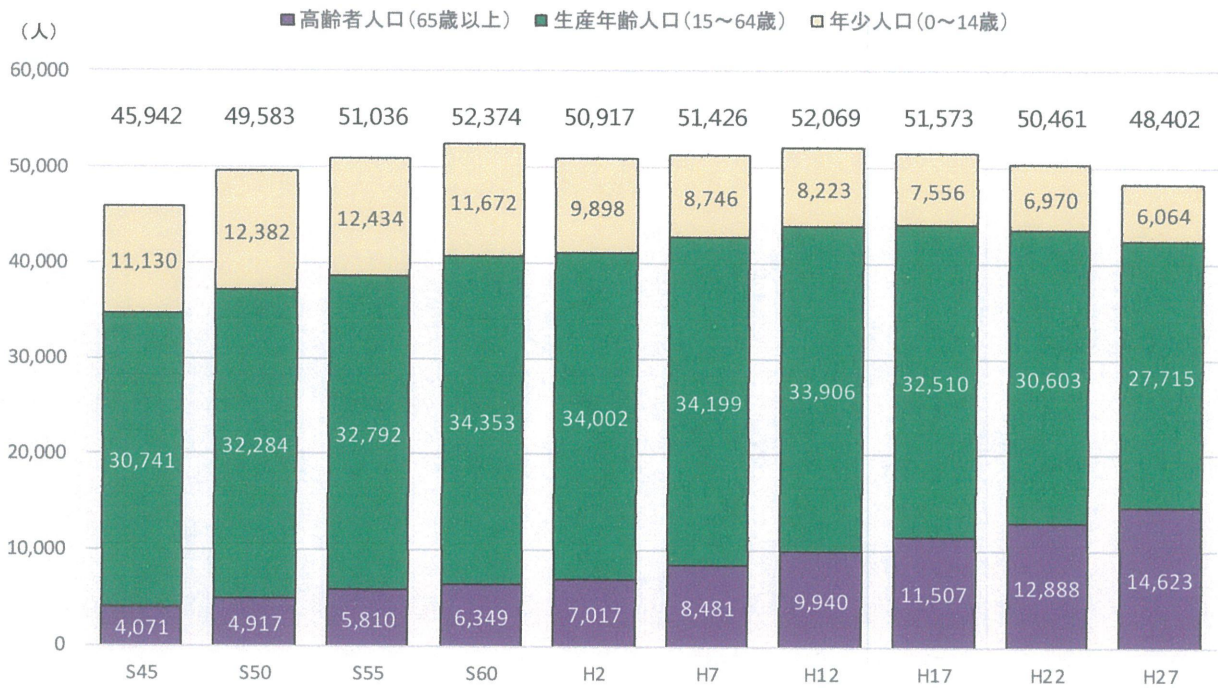
# 赤穂市の人口動向について

# 人口の状況

国勢調査によれば、赤穂市の人口は、平成12年をピークに、人口減少が始まっています。平成27年の調査では、昭和50年代から維持してきた5万人を切るといった状況となっています。

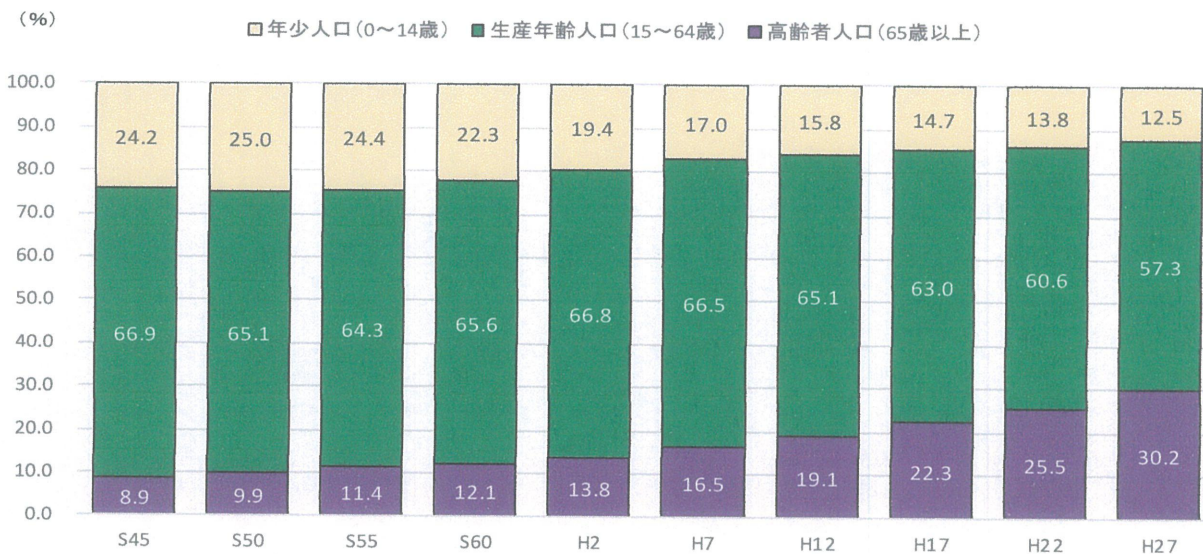
人口構造の推移をみると、年少人口は、昭和50年では全体の25%でしたが、平成27年には12.5%に減少し、生産年齢人口も、平成2年で66.8%でしたが、57.3%に減少しています。一方高齢者人口は一貫して増加傾向にあります。平成12年を境に年少人口を上回り、平成27年には全体の30.2%に達しています。

### 年齢3区分別人口の推移



※年齢不詳は含まない。

### 年齢3区分別人口構成比の推移



※構成比は年齢不詳人口を除き、算出している。少数第2位で四捨五入しているため、合計は100%にならない。

住民基本台帳から平成元年以降の人口の推移をみると、平成4年以降増加傾向にありましたが、平成11年をピークに、減少傾向に転じています。国勢調査では平成12年にピークを迎えており、赤穂市は平成12年前後が人口の最も多い時期となっています。

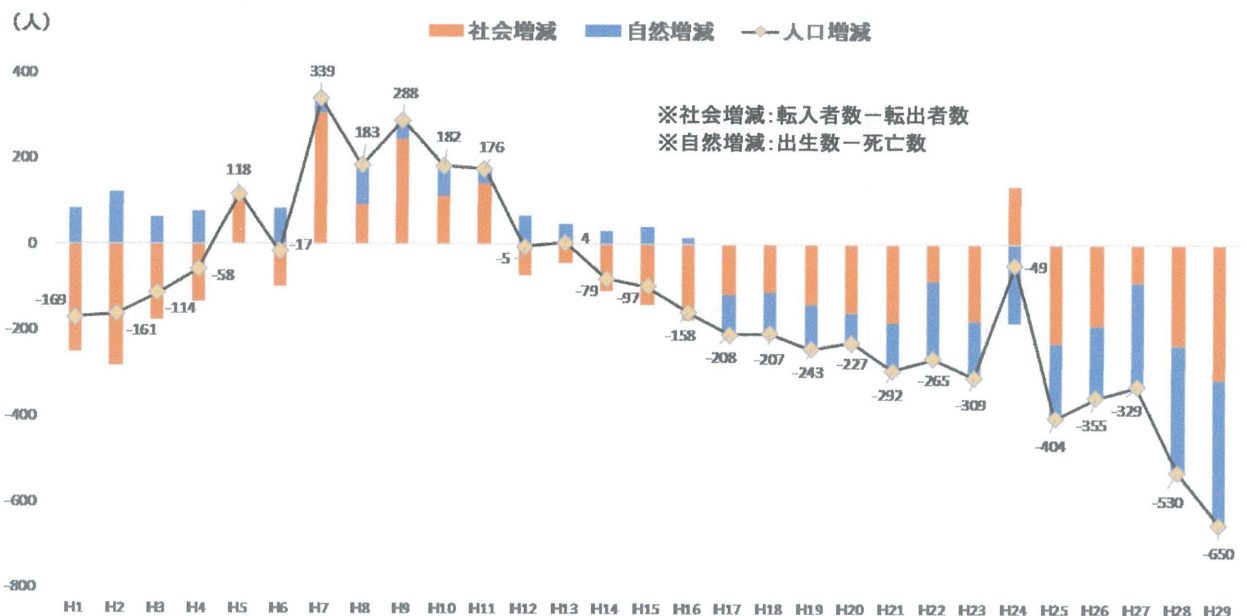
住民基本台帳における人口の推移



※平成24年7月の法改正により、外国人にも住民基本台帳法が適用されることとなった。

自然増減と社会増減の推移をみると、自然増減は、平成16年までは出生数が死亡数を上回るプラス推移となっていました。平成17年以降はマイナス推移となっています。社会増減は、平成7年から平成11年までの期間と一部の年で転入者数が転出者数を上回っていますが、相対的に転出者数が転入者数を上回っています。

自然増減と社会増減の推移

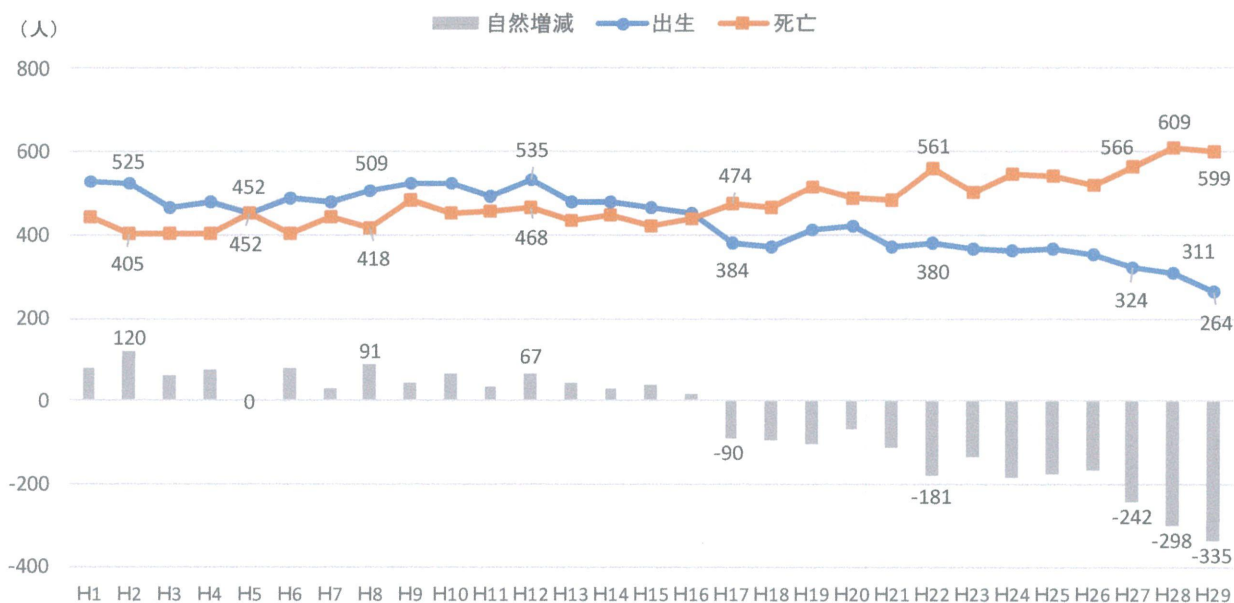


※自然増減の「出生数」「死亡数」は兵庫県「保健統計年報」(平成29年は推計)、社会増減の「転入者数」「転出者数」は赤穂市調べ

## 自然増減の推移

出生数と死亡数は各年で増減しており、平成17年以降は死亡数が出生数を上回っている状況です。特に出生数については、平成29年に300人を切っています。

出生数・死亡数の推移(自然増減の推移)

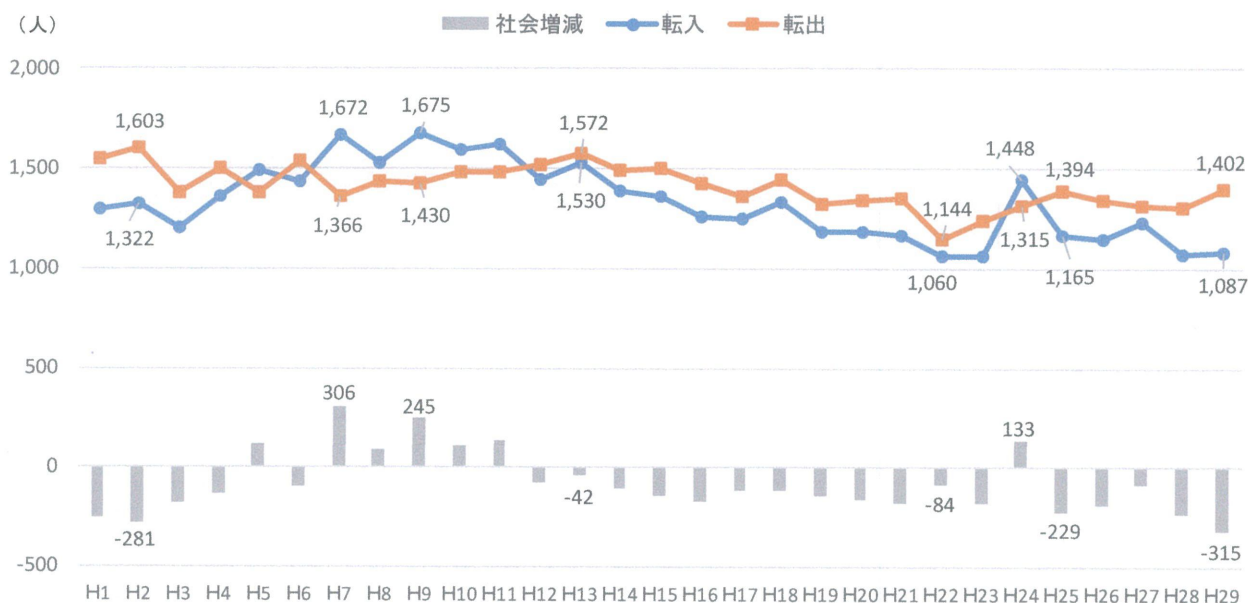


※兵庫県「保健統計年報」(平成29年は推計)

## 社会増減の推移

転入・転出の推移をみると、一部を除いて、平成12年から転出が転入を上回っています。また、転入・転出ともに減少の傾向にあります。

転入・転出の推移(社会増減の推移)



※赤穂市調べ

# 出生の状況

合計特殊出生率（ひとりの女性が生涯に産むと見込まれる子どもの平均的な人数）は、平成17年以降、全国、兵庫県と同様の変遷をたどっています。

### 合計特殊出生率の推移



※兵庫県「保健統計年報」

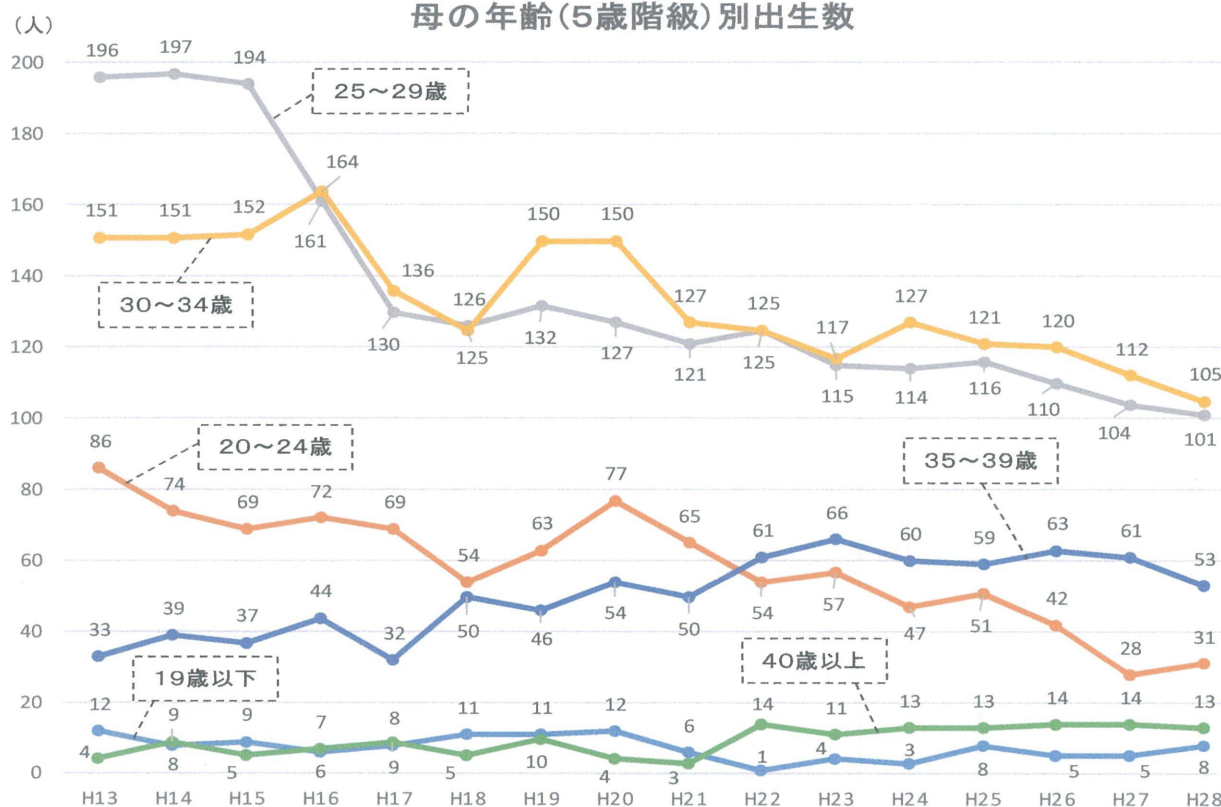
・人口が維持できる水準（人口置換水準）は、「2.07」だとされています。

・「2.07」とH27年の結果の比は $1.43 \div 2.07 \approx 0.70$ であり、このままでは子世代の人口は親世代の70%になることを意味します。

・さらにこの状況が続けば孫世代は70%の2乗で49%となり、祖父母世代に対し孫世代の人口が半分になることを意味します。

母親の年齢別出生数をみると、「20～24歳」、「25歳から29歳」及び「30～34歳」の出生数が減少傾向にあり、特に「25歳から29歳」の減少が大きくなっています。一方、平成22年から「35～39歳」、「40歳以上」の出生数が増加傾向にあります。

### 母の年齢(5歳階級)別出生数



※兵庫県「保健統計年報」

# 転入・転出の状況

平成25年からの5年間の社会増減の状況を見ると、全体では20歳代の人転出が転入を大きく上回っています。50歳以上では、少数ですが、転入が転出を上回っています。

転入・転出先をみると、主に「姫路市」「神戸市」「相生市」「岡山市」での行き来が多いのですが、いずれも転出が転入を上回っています。転入超過が目立つのは「備前市」のみで、20歳代の人転入が多くなっています。

主な他市町村(都道府県)からの転入状況  
(平成25～29年の計)

区分	総数	(人)							
		0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	
総計	5,094	657	352	1,798	1,121	500	266	397	
兵庫県	2,549	394	168	899	574	212	123	179	
姫路市	612	98	45	205	144	60	27	33	
神戸市	316	43	9	142	60	17	21	24	
相生市	312	54	21	81	79	29	13	35	
たつの市	157	31	4	48	46	13	9	6	
上郡町	159	29	14	42	37	14	8	15	
加古川市	120	21	8	45	22	9	6	9	
明石市	101	9	13	37	19	11	7	5	
大阪府	481	47	20	184	112	46	27	45	
岡山県	477	56	33	162	101	41	39	44	
岡山市	164	20	12	59	42	13	10	8	
備前市	153	21	5	47	28	14	18	20	
東京都	180	23	4	59	47	16	11	20	
広島県	104	11	10	45	18	10	5	5	
神奈川県	100	6	9	39	13	16	6	11	
京都府	94	11	5	41	18	8	4	7	

主な他市町村(都道府県)への転出状況  
(平成25～29年の計)

区分	総数	(人)							
		0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	
総計	6,139	590	423	2,604	1,265	606	261	389	
兵庫県	3,074	332	204	1,282	647	291	119	198	
姫路市	891	86	89	336	196	94	32	58	
神戸市	439	39	15	226	74	37	16	32	
相生市	382	55	17	155	93	22	17	23	
たつの市	212	29	14	78	56	22	7	6	
上郡町	152	24	11	49	28	17	11	12	
加古川市	131	18	9	46	32	11	7	8	
明石市	139	8	13	56	30	18	5	9	
大阪府	657	39	44	349	107	44	27	47	
岡山県	514	61	38	168	139	48	25	35	
岡山市	237	24	18	85	70	17	12	11	
備前市	100	17	6	25	20	11	9	12	
東京都	313	14	26	183	38	22	13	17	
広島県	86	6	10	33	20	9	4	4	
神奈川県	117	4	11	61	18	16	4	3	
京都府	156	6	7	84	26	14	8	11	

主な他市町村(都道府県)への転入・転出(社会増減)の状況  
(平成25～29年の計)

区分	総数	(人)							
		0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	
総計	△ 1,045	67	△ 71	△ 806	△ 144	△ 106	5	8	
兵庫県	△ 525	62	△ 36	△ 383	△ 73	△ 79	4	△ 19	
姫路市	△ 279	12	△ 44	△ 131	△ 52	△ 34	△ 5	△ 25	
神戸市	△ 123	4	△ 6	△ 84	△ 14	△ 20	5	△ 8	
相生市	△ 70	△ 1	4	△ 74	△ 14	7	△ 4	12	
たつの市	△ 55	2	△ 10	△ 30	△ 10	△ 9	2	0	
上郡町	7	5	3	△ 7	9	△ 3	△ 3	3	
加古川市	△ 11	3	△ 1	△ 1	△ 10	△ 2	△ 1	1	
明石市	△ 38	1	0	△ 19	△ 11	△ 7	2	△ 4	
大阪府	△ 176	8	△ 24	△ 165	5	2	0	△ 2	
岡山県	△ 37	△ 5	△ 5	△ 6	△ 38	△ 7	14	9	
岡山市	△ 73	△ 4	△ 6	△ 26	△ 28	△ 4	△ 2	△ 3	
備前市	53	4	△ 1	22	8	3	9	8	
東京都	△ 133	9	△ 22	△ 124	9	△ 6	△ 2	3	
広島県	18	5	0	12	△ 2	1	1	1	
神奈川県	△ 17	2	△ 2	△ 22	△ 5	0	2	8	
京都府	△ 62	5	△ 2	△ 43	△ 8	△ 6	△ 4	△ 4	

※市民課調べ

# 地区別（行政区別）高齢者人口の状況

## 地区別高齢者人口（H30年3月末）

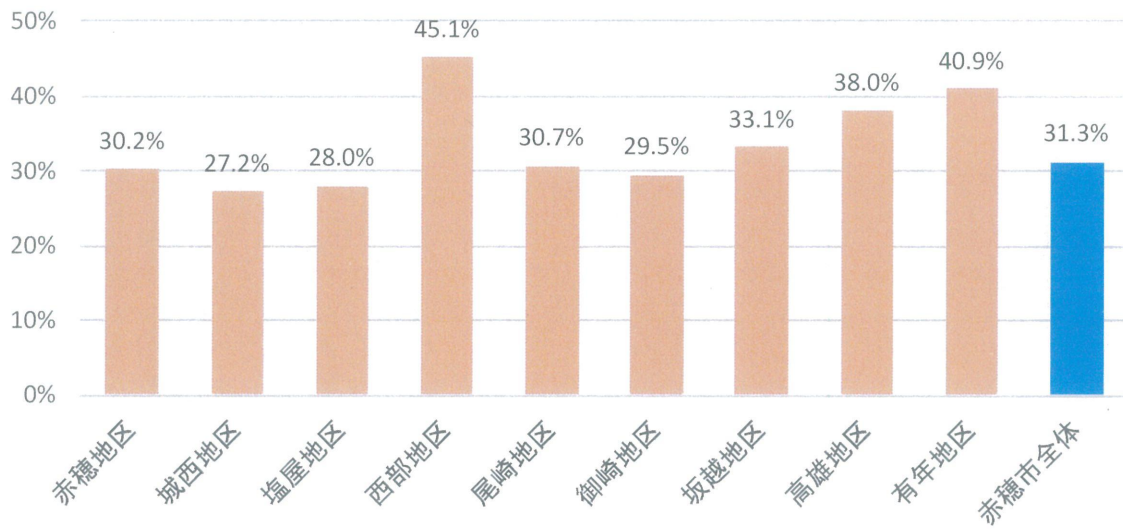
(人)

区分	赤穂地区	城西地区	塩屋地区	西部地区	尾崎地区
総人口	8,189	6,604	9,236	2,229	7,762
高齢者人口	2,475	1,796	2,582	1,005	2,383

区分	御崎地区	坂越地区	高雄地区	有年地区	計
総人口	4,965	4,006	2,287	2,899	48,177
高齢者人口	1,465	1,325	868	1,187	15,086

※社会福祉課調べ

## 地区別高齢者人口比率（H30年3月末）



※社会福祉課調べ

# 将来の推計人口

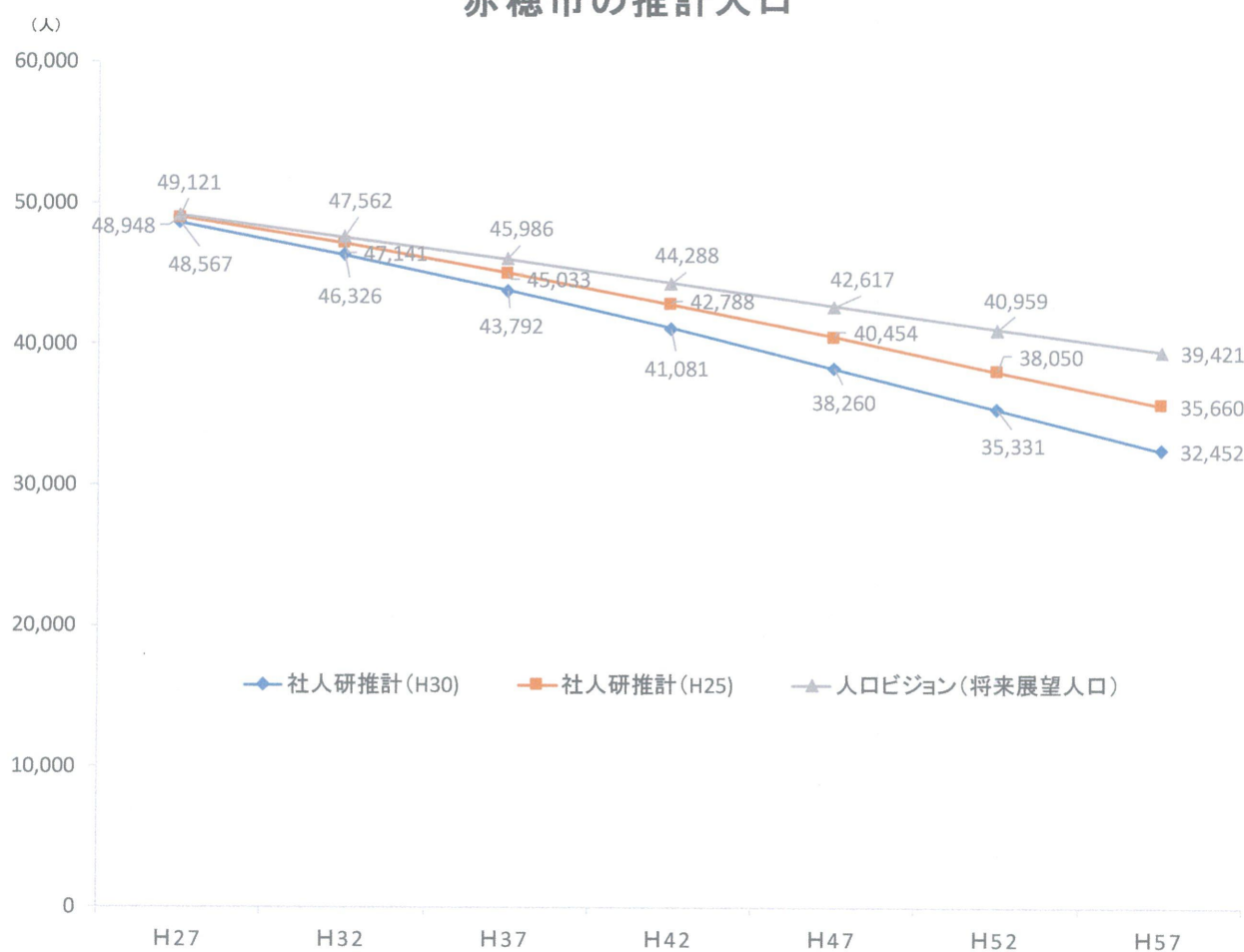


# 将来の推計人口

国立社会保障・人口問題研究所によると、西暦2045年における赤穂市の人口は2015年と比べ16,115人減の32,452人と推計されています。

5年前に、同じく国立社会保障・人口問題研究所が公表した数値より更に人口減が進んでいます。

## 赤穂市の推計人口



	H27	H32	H37	H42	H47	H52	H57
社人研推計(H30)	48,567	46,326	43,792	41,081	38,260	35,331	32,452
社人研推計(H25)	48,948	47,141	45,033	42,788	40,454	38,050	35,660
人口ビジョン(将来展望人口)	49,121	47,562	45,986	44,288	42,617	40,959	39,421

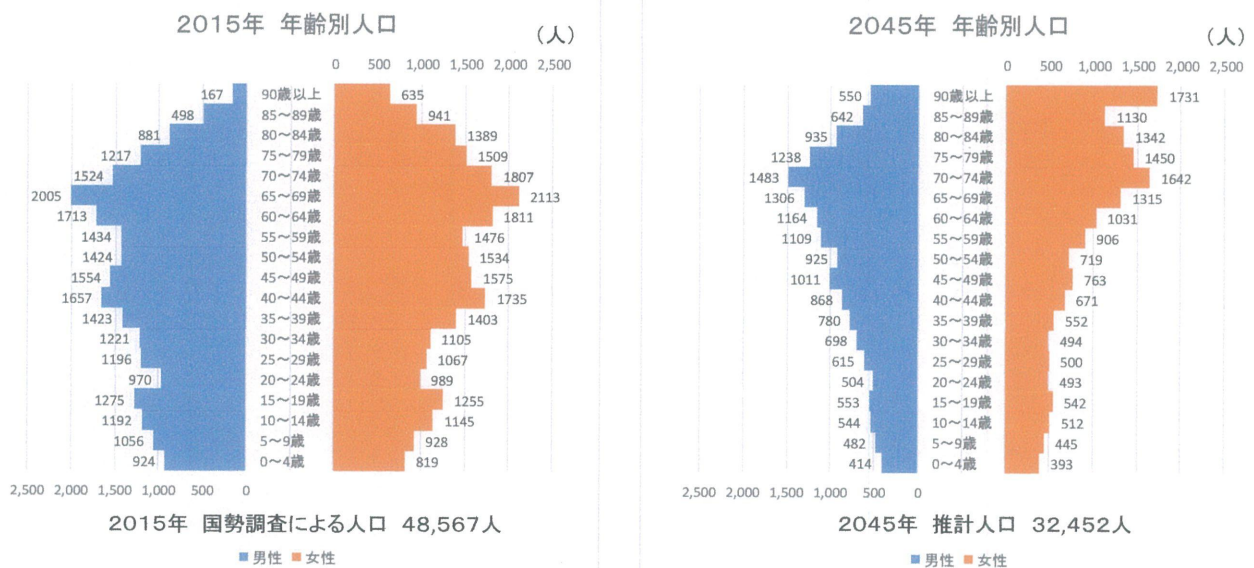
※ 社人研 = 国立社会保障・人口問題研究所

2045年の推計人口ピラミッドをみると、高齢化、少子化が進むことによって、逆三角形のこれまでにない形状になっています。

また、人口減少プロセスにおいては、現在が「高齢者人口の増加（総人口の減少）段階」、2025年から「高齢者人口の維持・微減段階」、そして2040年から「高齢者人口の減少段階」に突入すると推計されています。

### 人口ピラミッドの推移

※平成30年3月 国立社会保障・人口問題研究所 公表



### 赤穂市の人口減少プロセス(推計)

